

環境ポスターコンクール 受賞者インタビュー

令和6年度の伊賀市環境ポスターコンクールに多くの小中学生からの応募がありました。環境保全市民会議では、応募作品の中から、「環境保全市民会議賞」として、小中学生を一人ずつ表彰しました。

今回、「環境保全市民会議賞」を受賞した。成和西小学校の中島奏さんと大山田中学校の稲田智奈美さんにインタビューをしました。

「地球に優しく」

大山田中学校 2年

稲田 智奈美さん



た不法投棄は、家電製品やプラス

タスターを描くきっかけになっ

た。伊賀市の環境についてどう思

いますか。

るありました。不法投棄やポイ

捨てが気になつていたので、環境の

ポスターに応募することにしまし

た。

夏休み中のポス

ターの募集はいろ

い。このポスターを

描くきっかけは何

でしたか。

普段の生活の中

で、ゴミの不法投棄

の現場に出会い、問

題を感じてすてきな

ポスターを描いた稲

田さんです。

自分の住んでいるところで、地域の住民が

行くゴミ拾いに参加している中島さんです。

…このポスターを描くきっかけは何でし

たか。

どんなポスターを描こうかと、タブレッ

トで探していたら、シロクマが住めないくら

い、地球の温暖化が進んでいることに驚き、

このポスターを描いて多くの人に呼びかけた

か。

自分の住んでいるところで、地域の住民が

行くゴミ拾いに参加している中島さんです。

…このポスターを描くきっかけは何でし

たか。

どんなポスターを描こうかと、タブレッ

トで探していたら、シロクマが住めないくら

い、地球の温暖化が進んでいることに驚き、

このポスターを描いて多くの人に呼びかけた

か。

「こまってます 地球温暖化」

成和西小学校 4年

中島 奏さん



いと思っただけです。

…伊賀市の環境についてどう思いますか。

自然が豊かで、地球温暖化にはあまり影響

がないと思います。この自然は、いつまでも守

りたいです。

…環境を守るために何か気をつけている

ことはありますか。

家で資源ゴミの分別をしています。また、

物を大切にすることで、資源を無駄にしない

ようにしています。それから、地域の皆さん

と「ゴミ拾い」をしています。

…大人の人に言いたいことはありますか。

地球温暖化に目を向けてほしいです。電気

のむだ遣いをやめ、ゴミはリサイクル、そして

二酸化炭素を吸収してくれる森林を大切に

してほしいです。

チックなど自然に還らないものでした。その

ようなごみがあることはとても残念です。し

かし、野山や川などの自然は、都会と比べれ

ばまだいいかと思えます。

…環境を守るために何か気をつけている

ことはありますか。

プラスチックごみを減らすために、買い物

に行くときはエコバックを持っています。そ

れから、手を洗ったり歯磨きをしたりすると

きに水をとめるように気を付けています。電

気もつけっぱなしにならないよう、こまめに消

しています。

…大人の人に言いたいことはありますか。

特に、言いたいことはありません。環境を

大切にしている人があると思うし、逆に「ゴミを自

然に捨てる人もいます。ですから、大人も子

どももすべての人が、ゴミをポイ捨てしなく

なればいいなあと思います。

環境ポスターは、自分の問題意識の表明だけではなく、大人に対する子どもの叫びでもあります。私たち大人は、未来を生きる子どもたちの声に耳を傾けていく必要があると思います。

あなたのご参加をお待ちしています。お問い合わせは…

伊賀市環境保全市民会議事務局

〒518-0007 伊賀市服部町331-1

TEL 23-2393 FAX 48-6233

発行責任者：伊賀市環境保全市民会議

※本誌バックナンバーが若干残っています。
ご希望の方はご来庁くださるか、110円
切手を貼った返信用封筒を同封のうえ、
事務局までお送り下さい。

伊賀市環境保全市民会議

しぜん

No.83

令和7年(2025年)4月1日発行

豊かな恵みのなかで、
人と自然が共生するまち伊賀

回覧

環境ウォッチング 市役所周辺でバードウォッチング



身近なところにいる 鳥たちを観察

2月2日(日)、市役所周辺で「環境ウォッチング」としてバードウォッチングを行いました。

昨年度に引き続き2回目のバードウォッチングでしたが、今回は「上野生涯学習推進会議」とのコラボレーションで、小学生とその保護者に呼びかけ、9家族、27人に加え一般参加者や、レッドデータブック編集委員等、総勢40人で実施しました。前日からの雨が上がり、晴れ間にはなりませんが、時折薄日のさすバードウォッチング日和となりました。

今回は、市役所周辺ということで、田園にいる野鳥、林にいる野鳥、池や川にいる野鳥を双眼鏡を手に探しながら散策しました。

まず、市役所の隣に流れる水路で、セグロセキレイやハクセキレイ、キセキレイなどを観察することができました。そして、正面にある四十九新池では、マガモ・カルガモ・コガモ・ヨシガモ・キンクロハジロなどのカモ類がたくさんいましたが、我々が池につくと、池の反対側に大移動をして、望遠鏡や双眼鏡でないと見られなくなりました。とにかく、そうっと逃げていって、そのあと、集団で飛び立つといった感じです。

その後は、池から林に沿って移動しながら、木に止まっている鳥を探しました。そこでは、エナガやヤマガラなどが枯れ枝に止まっている様子を見ることができました。また、振り返って、田の畔に目をむけると、タヒバリやカシラダカなどの田でよく見かける鳥を観察できました。久米川でも、カモ類が泳いでいる姿を観察できましたが、中に真っ黒な鳥のオオバンを見つけることができました。空を眺めて、カラスやトビなどを確認しながら集合場所の市役所に戻りました。

今回講師をお願いした武田恵世さん(伊賀のレッドデータブック編集委員長)によると今回発見できたのは、下記のマガモなど20種類でした。

今回は子どもと保護者が多く参加してくれましたが、それぞれ双眼鏡を用意してくれていて、一生懸命に鳥を探す姿が見られました。

鳥たちは身近なところに必ずいます。きっと鳥を1羽も見ない日はないのではないのでしょうか。こういう機会だけではなく、ふだんから、鳥を探してみませんか。そして、自然のすばらしさを感じてみましょう。

◆当日発見できた鳥たち

マガモ・キンクロハジロ・ホシハジロ・ヒドリガモ・カルガモ・コガモ・カワウ・エナガ・ヤマガラ・トビ・ハシブトガラス・セグロセキレイ・ハクセキレイ・キセキレイ・イソシギ・タヒバリ・ホオジロ・カシラダカ・コゲラ・メジロ・ムクドリ・ヒバリ・モズ・ヒヨドリ・オオバン・スズメ

◆巣を発見できた鳥 キジバト

事業
報告第1回環境セミナー
カーボンニュートラルについて学びました

10月26日(土)午後1時30分から伊賀市福祉会館で環境セミナーを開催しました。講師は、三重県地球温暖化防止活動センターの活動推進員 吉岡正之さんで、「カーボンニュートラルについて」というテーマで講演していただきました。

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするということで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

参加者からはアンケートで「日常生活で気を付けなければならないことがわかった。」「カーボンニュートラルの意味が分かった。」等の意見をいただいています。

今後も、環境問題について正しく知ることを大切にしていきたいと思います。

参加者の
感想から

これなら私にもすぐできるなと、大変勉強になりました。地球にやさしいとは、私たちの家計にもとてもやさしいことだなとあらためて感じました。そして、自分たちだけでなくまずは家族に今日学んだことを話さなくてはならないと思いました。



第2回環境セミナー

牛乳パックで小物入れを作りました

2月15日(土)、伊賀市福祉会館で牛乳パックで小物入れを作りました。当日は16人の参加がありました。

牛乳パックは、リサイクルが進み、スーパーマーケットではどの店舗でも回収をしているといっても過言ではないと思います。

また、上質で均一な紙の質を持った牛乳パックは手作り小物の材料にされることが知られていますが、今回かわいらしい小物入れを作ってみました。リサイクルの工作は、作ったものを使い続けないとリサイクルにはなりませんので、いつまでも大切に使い続けてほしいです。



第1回クリーンウォーキングを行いました

12月7日(土)、国道163号線の三軒家から島ヶ原に向かう道路や奈良方面に向かう国道の歩道のクリーンウォーキングを行いました。

この日は、晴天に恵まれましたが、北風の強く吹く寒い日となりました。キャンソンさんと三重中央開発さんの企業会員を中心に約40人の参加で、道路沿いのゴミを回収できました。回収したものは主に、空き缶や飲み物のペットボトル、たばこの吸い殻が目につきました。

集めたごみは、袋に入れて軽トラックの荷台一杯になりました。



フリーマーケットを久しぶりに行いました

11月3日(日)、「JAとりたて市ひぞっこ」駐車場をお借りして、フリーマーケットを実施し、家庭の不用品など捨てるとゴミになるものを販売し、新たな持ち主に渡すことでゴミの減量に努めました。

区画は、20用意しましたが、最終的には17ブースが埋まりました。市民会議が発足した当初、上野市役所の通路を借りて実施して以来、久しぶりの実施でしたが、多くの買い物客が来てくれました。

出店者からは、来年もぜひ行ってほしいという声をいただきました。



「昆虫の森」の昆虫を増やすには…



2018年に紹介した壬生野小学校から、「昆虫の森」で授業をしてほしいという依頼がありました。

そこで、会員の辻が訪問して、「昆虫の

森」やそこに住む昆虫たちの話やカブトムシやクワガタムシを増やす方法について話をしました。

壬生野小学校は学校から少し離れたところに「昆虫の森」という場所を持っています。この森は、子どもたちになくなりつつある自然に親しんでもらおうと同窓会の役員さんが設置して、草刈りなどの管理をしていただいているそうです。全国的に見ても田んぼや畑を学校でお借りしているところはあるようですが、さまざまな木が生えた森を丸ごと借りている学校は少ないと思います。

夏にはカブトムシやクワガタムシを見ることができですが、この森を借りた時点よりも少なくなってきたことから、幼虫を育てるために「カブトムシの赤ちゃんのベッド」として、落ち葉などを積んだたい

肥置き場やクワガタムシが朽ちた木に入ってくるとうれしいと考えてシイタケを栽培して、そのほだ木の古くなったものを集めて、幼虫が育ちやすいようにしています。

昨今、シイタケの嫌いな子が多いと聞きます。しかし、自分たちが作ったシイタケなら少しは食べてみようと思ってくれるとうれしいです。そして、来年の夏には、そこにあるコナラの木に、カブトムシやクワガタムシの行列が見られると楽しいですね。

そして、「昆虫の森」で育った子どもたちが、自然に興味を持ってくれたらうれしいです。

